活動状況報告書（12 月分）

文化芸術コース　荒川　真央

12 月は“クリスマス”や“大晦日”を経てドイツの文化を大いに体感することができました。また学生同士の交流や勉強会・合わせ練習により、同じ日本人であっても(現在、シュトゥットガルト音楽演劇大学では多くの日本人が研鑽を積んでいます)生まれ育った土地により今の日本での音楽分野の実情や問題の捉え方に微妙に差異があること、更に様々な国籍の学生や先生との関わりの中で互いに国民性の違いを感じ、発見・気づきを得ることができました。

【レッスン】

不思議なことにドイツでは‘走っている人’や‘ながらスマホ’をしている人をあまり見かけません。これは一見音楽に関係のないことのように思いますが、ピアノやクラリネットのレッスンを聴講していると、アジア人は音楽の途中で「呼吸をしろ」「休符に時間をかけろ」「空間を感じろ」と言われる回数が多く、ヨーロッパ出身の学生は逆に「休むな」「長い音符で気を抜くな」「今出すその音に集中しろ」と言われる頻度が高い傾向にあることにつながっているように思います。日々タスクに追われながらも、確実に目の前のことを処理していく日本人と(日本人は勤勉のため指はよく動くけれど表現力・空間認識能力に乏しいとよく言われます)、スマートフォン手放しで広い道をゆったり散歩するドイツ人(ヨーロッパ圏の人々は指の動きなどのメカニックよりも個人の表現力や感性を大切にできると言われます)。どちらが良い・悪いではなく、言語以外にも日々の生活スタイルや国民性が音楽に表れている可能性を感じました。

またドイツに来てからは日本以上に演奏に対しての“議論”の時間が多く設けられ、自分や他者の演奏に対してどう思ったか・感じたのか、学生同士は勿論、先生から先生の演奏に対しての意見を仰がれることも多々あります。日本では「音楽性より人間性」などと言われることもありますが、“相手に尊敬の念を持ったうえで”意見を言葉で伝えることが技術の向上だけではなくより他者との深い信頼関係につながっていくのだと体感・実感しました。

【クリスマス】

シュトゥットガルトのクリスマス市は世界最大と言われるそうで、11 月末から 12 月 23 日までの間、大いに賑わいを見せていました。札幌市の大通公園で毎年催される“ミュンヘンクリスマス市”はかなり再現度が高く、売られているものもほとんど同じだったように思います。ただ、ドイツでは 24,25,26 日は祝日、スーパーを含めお店はすべて閉まっているため 23 日までに買い物を済ませる必要があり、クリスマス当日の街はとても静かでした。

【大晦日・元旦】

ドイツの大晦日はとても賑々しく、騒々しく、市民が一晩中市販の花火や爆竹を打ち上げて盛り上げていました。日本でいう年越しそばやお餅のように何か食にこだわりをもっているようには感じませんでしたが、年越し年明けのメッセージはたくさんもらい、送り、31 日(ジルベスター)だけは大学が終日休みでした。

1 月は門下発表会でモーツァルト作曲:デュポアのメヌエットによる 9 つの変奏曲, KV.573 を演奏します。またレーガー作曲:クラリネットとピアノのためのソナタ, Op.107 をクラリネットの専攻生と仕上げ、クラリネットとピアノのプロフェッサーそれぞれに指示を仰ぐ予定です。

練習風景①

練習風景②

Bamberger Symphoniker mit Mitsuko Uchida

シュトゥットガルト クリスマス市①

シュトゥットガルト クリスマス市②

シュトゥットガルト クリスマス市③

シュトゥットガルト クリスマス市④

シュトゥットガルト クリスマス市⑤

ドイツの大晦日

練習風景③